

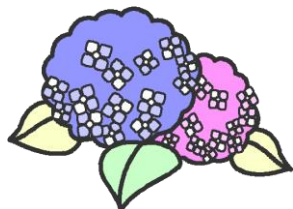


学校だより

6月号

令和5年5月25日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「横なが」

学校長 後藤 直樹

季節の変わり目とは言うものの、突然の真夏日や大雨と極端な天候の変化に対応しながらの5月でした。そのような中でしたが、6年生は二日間とも素晴らしい好天に恵まれ、日光に行ってきました。修学旅行としては比較的早い時期の平日でしたので、どこも空いており、青空の下ゆっくりと世界遺産東照宮の見学や湿原のハイキングを楽しむことができました。

さて、規制緩和に合わせて、本校も5月より体育館での全校朝会や集会活動を再開しました。校庭、校内放送に加えて体育館に一同が会するという選択肢が増えました。11日の集会の内容は、各委員長による活動内容の紹介でした。体育館での全校集会は着任3年目にして初めて見る光景でしたが、ひとつ感心したことがありました。司会の子も発表する子もマイクを使用していませんでした。しかし無理に声を張っているわけでもなく、自然な大きさでありながら後ろでもしっかりと聴きとれました。この形は発表者だけでなく、むしろ聴く側の全児童の姿勢ができていなければ成立しません。すべての子どもたちの視線が、壇上で話している委員長に集中していました。コロナ前にもあった風景とは聞きましたが、1～4年生にとっては初体験であるはずですが、ざわついた声を打ち消してしまうくらいのスピーカーからの大音量で進行している児童集会を見慣れていた私には新鮮な景色でした。また、肉声の方が聴いていて心地よいことにも気づきました。もう一つ発見したことは、本校の体育館は横に長いという、他校ではあまり見たことのない形なのですが、これが意外に使いやすいことです。敷地の関係でこの形になっているのだと思いますが、ステージの幅が小学校の一般的な体育館に比較すると、3割程度広がっています。逆に体育館そのものの奥行きは短いので、結果的に全児童が近い位置でステージに向き合うことができます。体育の授業はともかく、こうした集会にはとても好都合です。加えて、この冬には空調工事が予定されているので、完成後は本校の特色の一つとして、有効に活用していこうと考えています。そして、すでに培われている「話を集中して聴ける」という子どもたちの良さをさらに伸ばしていければと思います。



体育館での児童集会